

健康について区民の皆様へのお知らせです

① 2024 夏「マザーキラー」とも呼ばれている病気を知っていますか？

② 20～30代の若い女性に子宮頸がんが増加しており、日本における20～30代では一番多いがんとなっています。毎年約1万人の女性が新たに子宮頸がんと診断され、約2800人が子宮頸がんで亡くなっています。子宮頸がんの発症年齢と出産年齢のピークが重なっており、子育て世代の母親が子供を遺してお亡くなりになることもしばしばみられるため、「マザーキラー」とも呼ばれています。子宮頸がんは、主にヒトパピロマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因であることがわかっています。HPVは、ごくありふれたウイルスで性交渉の経験がある方であれば、誰もが感染する可能性があります。生涯でおおむね80%以上の方がHPVに一度は感染します。しかし、HPVに感染した方すべてががんになってしまう訳ではありません。通常は、感染しても免疫力で自然に排除されますが、一部のものが長い間持続感染し正常細胞が少しずつがん細胞に変化します。HPVには200種類以上の型がありますが、これらの一部が子宮頸がんの原因となります。

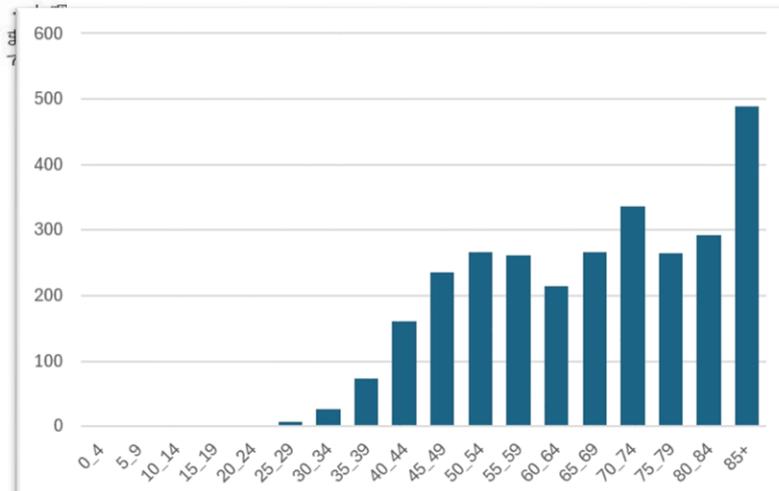
③ 笑顔と健康 世田谷区医師会

すでにHPVワクチン接種が広く浸透した国々（接種率80～90%以上）では子宮頸がんの根絶を期待させるデータが数多く出てきており世界各国の政府が中心となって世界中でワクチン接種が実施されています。

<HPVワクチンは安全なの？>

④ HPVワクチン接種をすることに不安に思う方もいるかと思いますが、数多くの研究によって「特別に重い副作用を引き起こすわけではない」と確かめられています。今回の健康教室では、関東中央病院産婦人科区長の稲葉加奈子先生にHPVワクチンについて、分かりやすく解説していただきます。稲葉先生はHPV啓発プロジェクトのみんな代表理事としても活躍されています。ぜひ、ご参加ください。

第151回 入場無料 予約不要  
区民のための健康教室



子宮頸がんによる年齢別死者数(人) 国立がん研究センター全国がん登録 2021 より

① 「マザーキラー」と呼んでいるのは恐怖を煽ってこのワクチンを広めたい人たちだけです

国立がん研究センターの最新統計（2021）によると、25歳未満の子宮頸がんによる死者は0人、25-29歳の死者は7人、30-34歳の死者は26人、ここまでの合計は33人で、死者全体の1.1%。要するに、ごくまれなケースを大げさに言っているだけです。死者の96%は40歳以上、83%が50歳以上です。

むしろ次のグラフのように、がん検診と自発的な診察だけで、戦後一貫して子宮頸がんによる死者を減らしてきたのが日本です。

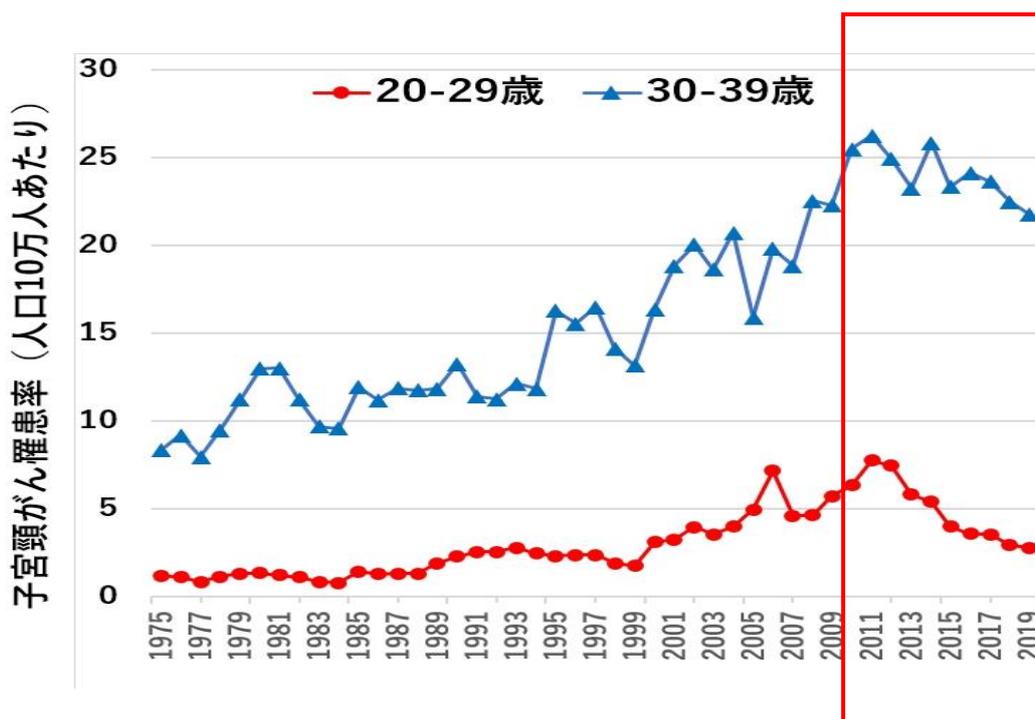


② 「20～30代の若い女性に子宮頸がんが増加しており」というのは明らかな誤りです。

下のグラフ（国立がん研究センター全国がん登録）のように20歳代、30歳代の罹患率（人口10万人あたりの患者数）はこの10年ほど下がり続けています。（赤枠内を見てください）

ただしこれは HPV ワクチンの効果ではありません。

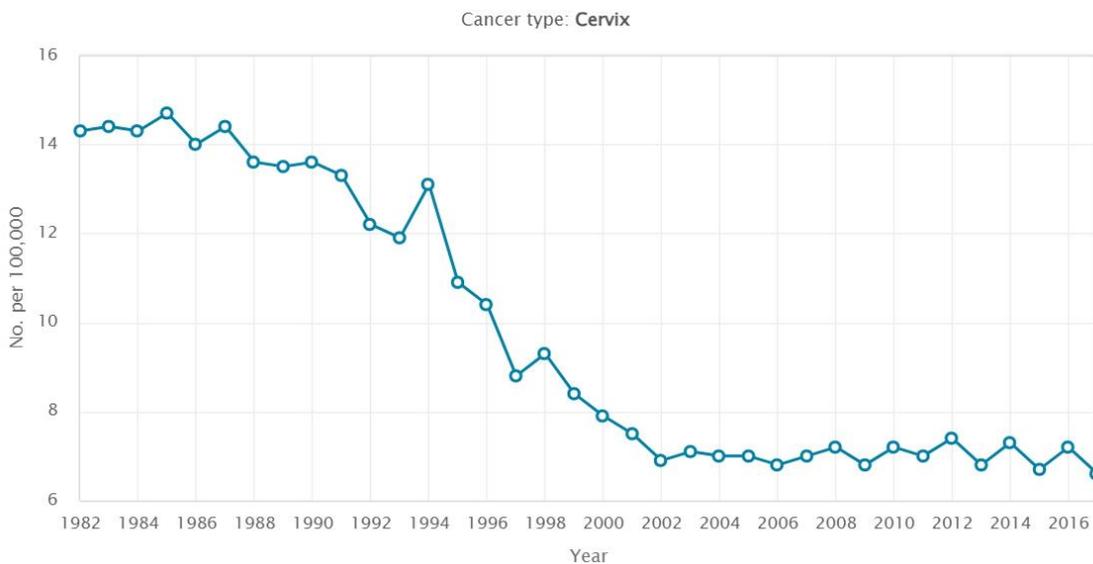
一番罹患率が減っているのは25-34歳の年齢層で、この人たちは HPV ワクチン前世代で接種率はほぼ0%の人たちです。おそらく子宮頸がん検診の普及などが主な原因だと考えられます。



③ 「海外では子宮頸がんの根絶が期待されている」はあくまで期待のみ、実績を伴っていません。

2007 年以降、接種率 70% 以上が達成されているオーストラリアでも子宮頸がんの全年齢の年齢調整罹患率は人口 10 万対 6.0 以上がずっと続いており、少しも減っていません。むしろ人口の高齢化によって子宮頸がん患者数はまだ増え続けています。あと何年かで根絶など、ありえない状況です。

Age-standardised incidence rate, by sex, 1982 to 2017



オーストラリア最新子宮頸がん統計（人口 10 万人あたりの患者数・年齢調整罹患率）

実は日本と同じで、25 歳以上 30 歳未満の子宮頸がん罹患率が減ってきていますが、その人たちはワクチン接種世代より前の人たちです。

④ 実は重い副反応が出ています

多くの副反応患者の実際に診察した、いくつもの大学病院の教授らによって「免疫介在性の神経障害が強く疑われる」という査読付き論文が多数出ています。